

第 1 回 大阪府四條畷市未来技術地域実装協議会

■日時:令和 2 年 11 月 18 日午後 2 時~4 時

■場所:四條畷市立グリーンホール田原 1 階なるなるホール

【議事要旨】

(1) 案件 1「協議会規約の制定について」

- ・資料 1-1 について事務局より説明し、規約について承認を頂いた。
- ・資料 1-2 に基づき構成員紹介を行い、会議が成立していることを確認した。

(2) 案件 2「未来技術社会実装事業の概要について」

- ・資料 2 について、国土交通省より説明。

(3) 田原地域の取り組み

- ・追加資料 3 について、四條畷市田原支所長より説明。

(4) 案件 3「提案内容の概要について」

- ・資料 3 について、事務局より説明。

解決すべき課題は ① 公共交通手段の確保・維持

② 買い物に関する不便解消 ③ 地域社会における住みよさの持続化

①については高低差のある田原地域で高齢者が安心して暮らせるように、低速型の自動運転車の実装を目指す。

②については高低差のある地域の方が在宅でのリアルな買い物感覚による買い物とその近隣集積地まで自動配送ができるよう、買い物の決済のキャッシュレス化、その商品の配送としての自動運転やドローンなどの導入に向けた検討を地域の方たちの声を聴き実装を目指す。

③については自動運転やまちづくりに必要な都市 OS を整備し、地域社会の課題解決や新たな企業サービス住民サービス展開に向けた SandBox の利活用推進を目指す。

(5) 質疑応答

(扇谷委員)

・私たち住民にとって、実装によって 3 年間でこんなことが可能になったといえるように、ぜひともご尽力を頂きたい。

・質問が 5 点ある。

① 資料を拝見させていただくと、横文字が多く、具体的な内容がわかり

にくい。

データドリブンを調べると「収集したデータを分析、意思決定や企画の立案に役立てていく方法論」とあるが、何の目的でどんなビッグデータを収集し、どのように活用するのか、イメージをご説明いただきたい。

- ② 今回このお話をいただく中で、私たちは現在市内を走行しているコミュニティバスの自動運転をイメージしたが、その解釈でよいのか、それともコミュニティバスと切り離して自動運転車の導入が予定されているのか、どのようなイメージを持てばよいかをお聞きしたい。
- ③ 現在レベル 3 の自動運転がなかなか現実化しない中で、レベル 4 実現への見通しと、法整備との関連、たとえば事故を起こした時の賠償責任問題など、様々な問題があると思われるが、そのあたりの見通しについてお話を頂きたい。
- ④ SandBox 利活用業務の推進とあるが、いったいどういうことを狙いとしておられるのかご説明を頂きたい。
- ⑤ 上田原と下田原には所謂調整区域、農業振興地域があり、多くの住民が農業に従事している。資料に農業 ICT という記載があるが、きっちり議論をしていただけるのか。上田原、下田原の農地整理が今進んでいる中で、どの程度スマート農業がこのなかで議論されて成果を得られる可能性があるのか。

(笹田委員)

- ① 日本全体の中で現在言われているのが、様々なデータが、受け皿を持たない中で流れてしまっているということ。現在、各事業者が個々それぞれデータを管理している状態である。まち全体の中で、個人情報については一定考慮しながら、共通の枠組みの中でデータを利活用していきたい。その中で新たな産業が生まれるという意味で、地方創生にも寄与すると考えている。
- ② 私たちは自動運転について実証実験を行うことはまだできていない。高速運行には相当の技術が必要になってくるため、まずは田原地域内での低速のモビリティから着手させていただいて、その中で技術や地域の声を聞きながら自動運転の方向性を見出していきたい。
- ③ 自動運転レベル 3 の車が日本でも市販されるという新聞報道があり、着実に進歩してきている。
- ④ 田原地域エリア全体を「砂場」と見立てた中で実証実験を重ね、不具合があればモデルを一回崩して新たなモデルを実証し、うまくいったら横展開する。田原地域で実証実験を始め、うまくいったら横展開を四條畷全体、大阪府、けいはんな学研区域全体に広げていき、日本全体が豊か

になるように勧めていきたいと思っている。

- ⑤ 直ぐにスマート農業にとりかかるのではなく、都市 OS の整備、Sandbox の候補としてスマート農業を考えている。データ駆動型の街にしていく中で、田原地域の気候等のデータをとっていくことで最適な農業につなげていきたい。

(盛田委員)

業者が自動車を販売するにあたっての型式指定、基準に適合しているという試験がレベル3に関して 11 月 11 日に行われた。レベル 3 も色々な段階があり、今回のものは高速道路で渋滞下、システムが「運転を代わってください」と言われたときにいつでも代われるという条件下での技術が実装されている。レベル 3 ではドライバーがいるのが前提になっているが、レベル 4 は決まった条件下でシステムが完全に運転主体となる。現時点で、レベル 4 がこの段階で実現できます、ということは決まっていない。

(6) 案件4「スケジュール、実装に向けた課題等について」

《スケジュール》

- ① 自動運転については既存ルートでのデータ収集を行いながら、田原管内の中で実証実験を行い、地域の声を聴き、種別、運行方法、ルートを検討しつつ、持続可能な運行体制を検討し、令和6年度の実装を目指す。
- ② 買い物支援については地域の小売店舗の協力をいただきながらリモートによる商品の買い物が実装可能であるかを確認し、令和4年に実証実験を行い令和6年度の実装を目指す。
- ③ 都市 OS については、国の動向をみきわめつつ、他団体との連携のもと実用化に向けた取り組みとする。

《実装に向けた課題》

- ・令和2年度は、自動運転に向けたデータ収集及び検討等を目的として、田原地域の皆様のご協力をいただき、アンケート調査を実施する。
- ・財源として令和3年度のスマートシティ関連予算と地方創生交付金などの活用を想定している。少しでも有利な財源確保に努める。
- ・適時、現地支援責任者と相談のうえ、適切なスケジュール管理のもと事業の推進を図る予定である。

(7) 質疑応答

(久寿居委員)

- ・予算状況によって計画変更の可能性があるということの認識でよろしいか。

(笹田委員)

・まずは最大の努力をして各種補助金を取得したいと考えている、万が一採択に至らない場合はスケジュールの見直しを適時行い進捗を見定めながら、全体としては5年間の期間で実装できるように考えている。

(扇谷委員)

・予算措置としては、順序が逆だと考える。四條畷市が未来技術社会実装事業に手を挙げた以上、四條畷市が責任をもって進めるという姿勢で、自主財源の中で確保をする中で国・府の支援をいただくという発想を持ってほしい。
・今年度行うというアンケートを配布、回収するコストの確保はしているのか。

(笹田委員)

・我々も事業に応募した経緯から、責任をもって運営していきたい思いはある。実証実験は多額の費用が掛かるため、財源確保をしていきたいという胸の内を表現したもの。自主財源の利用について取捨選択しながら市としてできるかぎり頑張っていきたい。

また、アンケートについて、配布や回収につきましても地域の協力を得ながら実施していきたい。

(扇谷委員)

・事前に資料を頂いた中で疑問点がある。この協議会の構成員の中に京阪バスが入っていない。コミバスと連携してやるというわけではないという説明があったことから理解が出来た。その理解でいいか。

(笹田委員)

・田原地域に関わるバス事業者全体に声はかけた。様々な会社の事情がある。公共交通は持続可能な運営というのが大切なこと。公共交通を担っていただいてる事業者様とは別の、エリア内の地域の困りごとを、自動運転等を目指した中で考えていきたい。

(8) 案件 5「その他」

≪地域の方のご意見、ご感想≫

(杉本委員)

上下田原は農業地帯であり、高齢化も進んでいる。大阪府中部農と緑の総合事務所と上下田原土地改良区との間で現在スマート農業の取り組みを進めている。この事業とは切り離して考えた方がいいかと考える。

出来ることから、住民の声を聴きながら、この会を進めていけたらいいと考えている。

(澤田委員)

住民の方にどう説明したらいいかわかりにくい。分かりやすい文面で住民に説明し、理解を得られるようにしたらどうか。

(旭委員)

活性化対策本部会議から参加しているが、様々な人が参加するような組織になったことで驚いている。田原は高齢化が進んでいるため、この事業は急がないといけないという認識がある。当時子どもだった住民が大人になって出ていった状況もある。戻ってきても住みやすい、住みたくなるような環境づくりが必要だと思う。

(松本氏(代理出席))

私が街づくりに携わって感じることは、皆にどうわかりやすく伝えようかということ。一緒に考えてもらえるような体制を作れるか、伝える場を作れるか。行政に何かしてもらうのではなく、住民がしたいと願わなければ変わらない。そういう雰囲気、声をつなげていきたいと思っている。

地域課題を一緒に解決していこうという話が企業の方とできることに、私はワクワクしている。そういうつながりをつなげていって、一歩ずつ変えていきたい。

農業の問題についても、頑張ってもらいたい、私たちにできることは取り組んでいきたいと思っている。やりながら見えることはあると思う。

(岡村委員)

自動運転の取り組みに関しては、大阪も ATC で取り組んでいるのを見て、かなり難しいものであると感じている。田原地域は、特に下田原、上田原に道路整備も行き届いていない地域もあり、壮大な計画と感じた。

(扇谷委員)

自動運転もドローンやロボットを使った配送も田原地域で実現可能と思っている。

地域の住民に情報を届けることは大切。下田原地区は毎月ニュースを出しているが、なかなか情報が行き届かないのも事実。手作りの分かりやすい写真を入れたチラシ等を作っていただいたら、地区への配布はお任せいただきたい。

地域住民は全面的に協力する。国・府の関係機関、事業者の皆さま、ぜひこの地域の住民に対して一つの思いをもって、この事業が成功するように連携して取り組んでいただきたい。

(杉本委員)

田原台自治会の代表も、オブザーバーではなく、構成員に入れていただきたい。

(笹田委員)

本日の会議には相談役ということで田原台五丁目の柘田自治会長に来ていただいた。自治会連絡会と調整して、今後委員として参加いただけるよう

な形を今後検討したいと考えている。

(相談役・梶田氏)

11月の田原台自治会連絡会の中で本会議への出席要請はあったが、平日ということもあり、参加が難しい人が多かった。後日、連絡会で報告する旨のお話があった。

今一番困っているのは、高齢化。老人会でも運転免許返納の話をよく聞く。買い物に対する課題が非常に緊迫しており、支所にも来ることができないという人もいます。コロナの影響で外出できず、自治会に入る人も少なくなってきた。

農業のことも考えた。活性化のため、「道の駅」みたいなものができたらいいと思っている。

(笹田委員)

地域の皆さま、田原地域を良くしたいという思いを持っていただいている。地域の皆さまの思いを基に社会実装に向けた取り組みを四條畷市は行っていこうと思っている。各省庁の皆さま、よろしく願いしたい。

(松本委員)

我々大学は性質上色々なことにチャレンジしている。また、若い学生や研究者が色々なアイデアを持っているものの、地域の方の声を反映させるようなことをしていないので、ぜひこの協議会がきっかけとなってそういったことが進めばありがたいと思っている。

(9)今後のスケジュールについて

次回の会議の開催については、各種補助金や地方創生交付金等の獲得後を予定している。来年5月下旬から6月上旬をめどとして考えている。